

## タイムトンネルを抜けて

三 春

大晦日恒例の実家での忘年会がコロナで中止されてから三年余り、今回は久々に開かれた。といっても例年のトラバガ二食べ放題がないので魅力半減。トラバが無いなら行かないよという食いしん坊を除き、私を含めて十四人が集まった。

驚いたのは新宿に住む姪の子供らの変貌ぶりだ。三年なんて高齢者にはあつという間だけれど、三年前に幼児だった子は一人前の顔つきをしているし、向こうで笑い転がっている美少女はいつたい誰だろう。まるでタイムトンネルを抜けて突然現れたかのようだ。彼らにとつても私は謎の人であるらしく、あれは誰かと親に尋ね、「覚えてないの？ みはるちゃんだよ」と教わっている。この歳で十歳足らずの子供からチャン付けで呼ばれるのはさすがにむず痒く、彼らも「納得しかねる」という顔をするのだが、大昔からの呼び名はそう簡単に変わらないものだろう。

兄夫婦と同居している子供たちのほうは見知っていても、恐れを知らぬ小さな女の子の取り扱いが難しい。何でも不思議がり、遠慮なく問いかけてくる。「今日は何しに来たか」「今度泊りに行きたい」まではともかくとして、「庭の猫の墓を掘ったら何が出てくるかやってみよう」とはギョツとした。ああ、ウチの猫は彼女たちにベタバタされるストレスで急死したのかもしれない。

大晦日といえども子供と一緒に夜は早仕舞いだ。しかも飲んでるのは私一人だけ。孤独な酔っ払いは昔話を始める。「昭和三〇年代にケネディの肉声の演説テープを買ったでしょ、まだ持ってるの？」と兄に尋ねても、肝心の兄は全く覚えていない。今や演説音声売れるような政治家は皆無だろうに。兄は母の秘蔵っ子、私は母に逆らってばかり、タイプは全く違うけれど兄と私は昔も今も仲が良い。

真つ暗な我が家に戻る。年末特集のTVドラマが終わる頃に午前零時が近づく。そつだ、除夜の鐘を聞いてから寝よう。

いくら耳を澄ませても池上本門寺の鐘の音は聞こえない。耳が遠くなったのか、増え続ける高層ビルに阻まれるのか……昭和は遠くなりすぎた。